

日本ホスピス・在宅ケア研究会



第19回 全国大会 in 沖縄

 日本財団 助成事業
 The Nippon Foundation
 感謝の贈り物

 命ぬち どうたから 宝
 を支える
 ていーあんだ

 2011 7月 16 土 17 日
 9am~17pm

沖縄コンベンションセンター

日本ホスピス・在宅ケア研究会は、がんや在宅ケアなど今日的な医療や福祉の諸問題について専門家と市民が同じ高さの目線で考えるために1992年に設立されました。医療従事者・社会福祉従事者・市民・患者のみなさんが、対等の立場で話し合い、互いに学ぶ場であり、市民に向かって開かれた会です。年に一度の全国大会が、今年沖縄にてもたれます。各演題に関心のある方はどなたでも歓迎いたします。ぜひご参加下さい。

特別講演

 これからのがん
 対策の一面

垣添忠生氏

日本対がん協会会長

 緩和ケアで何が
 一番大切なのだろう

徳永進氏

野の花診療所院長

 語り伝えよう、
 自分の人生を

柳田邦男氏

ノンフィクション作家

 その他、講演・シンポジウム・パネルディスカッション・ワークショップ・報告会・セミナー
 ・上映会・ミニコンサート・ショップ等、多彩なプログラムが用意されています。

懇親会：7月16日(土) 19:00~20:30 ●ロワジールホテル那覇-3階 天妃の間 ●参加費:5,000円 ●定員:500名 ●(※事前の申し込みが必要です)

チケット 沖縄三越 098-862-5111 / デパートリウボウ 098-867-1171 / コープあぶれ 098-941-8000 / きなクリニック 098-885-4976

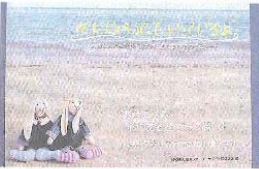
参加費 1日のみ前売 2000円(当日2500円) / 2日間前売 4000円(当日5000円) / 学生1日 1000円

主催 日本ホスピス・在宅ケア研究会 沖縄大会実行委員会: 〒903-0821 沖縄県那覇市首里儀保町1-26-3 きなクリニック内

お問合せ tel: 098-885-4976 fax: 098-885-4978 email: t-anda@kina-clinic.jp ホスピス・ていーあんだ で検索

日本ホスピス・在宅ケア研究会 宜野湾で全国大会

大切な人を守るために、大切な人に向けて頑張ろう！
「ホスピス・在宅ケア研究会」



大切な人を失った
子どもの事例紹介

大切な人を失った子どもは、親にとって何よりも大切な存在です。子どもが病気で亡くなった時、親は大きな悲しみに襲われます。この事例は、子どもが病気で亡くなった親の体験談です。親は、子どもが亡くなった後、大きな悲しみに襲われ、生活がままならなくなりました。しかし、ホスピスや在宅ケア研究会のサポートを受け、少しずつ生活を取り戻すことができました。この事例は、親にとって大きな励みとなりました。

NPOがグリーンブック発行



「命を守るために、命を救うために」をテーマに、日本ホスピス・在宅ケア研究会第19回全国大会が、宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで始まりました。同大会は、ホスピスや在宅ケアに関する情報を共有し、地域での実践を報告する場として開催されました。

地域で支える
仕組みを検討

「命を守るために、命を救うために」をテーマに、日本ホスピス・在宅ケア研究会第19回全国大会が、宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで始まりました。同大会は、ホスピスや在宅ケアに関する情報を共有し、地域での実践を報告する場として開催されました。また、地域で支える仕組みを検討するためのセッションも行われました。

終末期医療で連携を

ホスピスや在宅ケア研究会が、地域での実践を報告する場として開催されました。また、地域で支える仕組みを検討するためのセッションも行われました。このセッションでは、地域での実践を報告し、連携を促進するための取り組みが紹介されました。

2011年7月18日(月)
沖縄タイムス 24面

2011年7月18日(月)
琉球新報 24面

沖縄タイムス

在宅支援体制探る

ホスピス研大会 地域と連携必要

日本ホスピス・在宅ケア研究会が、宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで開かれた。同大会は、ホスピスや在宅ケアに関する情報を共有し、地域での実践を報告する場として開催されました。また、地域と連携するための取り組みが紹介されました。このセッションでは、地域での実践を報告し、連携を促進するための取り組みが紹介されました。

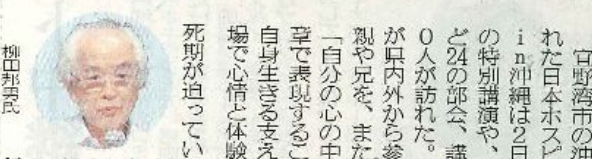


第3種郵便物認可

震災時の在宅ケアなどをテーマに行われたシンポジウム



日本ホスピス・在宅ケア研究会



宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで開催された日本ホスピス・在宅ケア研究会第19回全国大会。同大会は、ホスピスや在宅ケアに関する情報を共有し、地域での実践を報告する場として開催されました。また、震災時の在宅ケアなどをテーマに行われたシンポジウムも行われました。このセッションでは、震災時の在宅ケアに関する実践を報告し、連携を促進するための取り組みが紹介されました。

災害時停電への対応を

講演やシンポに1800人が参加

宜野湾

和らげる不思議な力を持たらしている」と述べた。一方、震災時の在宅ケア・ホスピスケアについては、南部病院の院長剛田英一氏、フリーライターの山城紀子氏、県友会会の田名勉会長、訪問看護ステーションの看護師金城千代氏、社会福祉士の安藤名義氏らが登壇した。黒田氏は「災害があっても、その人らしく生きられる支援が必要。声なき声をかき取り、声を上げることが大切だ」と振り返った。また金城氏は5月の台風2号で停電になり、在宅の患者が人工呼吸器や酸素吸入器が使えなくなった事例を挙げ「自宅が停電しても対応できる体制を整えないといけない」と指摘した。

日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 沖縄

治療後の情報重要

日本ホスピス・在宅ケア研究会第19回全国大会 in 沖縄が16、17の両日、宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで開催された。

在宅医療の課題、海外事例の紹介など約40名の講演やシンポジウム、座談会があった。がん患者から医療従事者に対し、治療だけでなく、治療後の人生に役立つ情報を求める声や、患者会について周知を求める声が上がった。同大会の一部について紹介する。



シンポジウム「がんサイバパー」の招きあひま(左から) 榎井なおみさん、天野慎介さん、上野創さん、田名勲さん。16日、宜野湾市の沖縄コンベンションセンター

フロアとの質疑応答

フロアでの「治療後の」情報提供を受けた患者や家族、医療従事者、患者会関係者などから、治療後の生活に関する質問が寄せられた。...

シンポジウム「がんサイバパー」の抱える悩み



フロアから質問する病後や療養の悩みが込められた質問などさまざまな質問が出たシンポジウム「がんサイバパー」の招きあひま

会の存在生きる勇気に

癌闘いのリンパ腫治療で声、家族、仲間が「前を」立って生きていく。...

人と比べない生き方へ

肥者として働く新入社社員、ものごとを押し止されようとする。...

就労問題制度で対応を

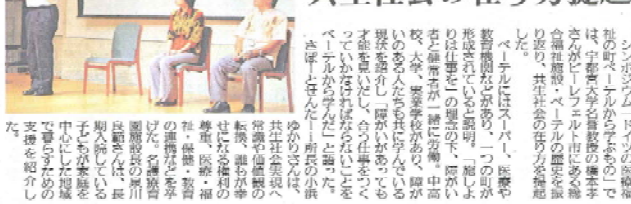
2000年施行の障害者雇用促進法、再発の主な原因は、...

復職会社との対話重要

右側の人が奥を歩きます。手前側は患者さん。手前側は...

シンポ「ドイツの医療福祉の町ベテルから学ぶもの」

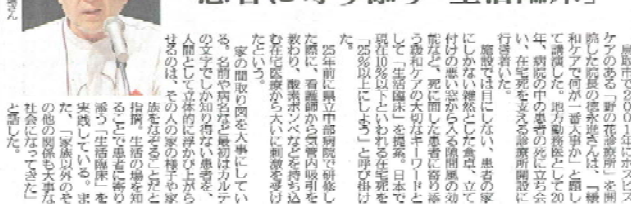
共生社会の在り方提起



シンポジウム「ドイツの医療福祉の町ベテルから学ぶもの」の模様。ベテルから学ぶものは、宇都宮大学名誉教授の榎本孝一さん、...

講演「緩和ケアで何が一番大事か」

患者に寄り添う「生活臨床」



緩和ケアで何が一番大事か。徳永 進さん(鳥取市、野の花診療所院長)

講演「精神科在宅医療の挑戦」

日常の場で包括的支援



講演「精神科在宅医療の挑戦」。高木 俊介さん(たかぎクリニック院長)

シンポ「様々な看取り」

どのような送り方するのが大事



シンポジウム「様々な看取り」の様子。大塚明夫さん、...